

➤ 19日 土曜

マルコ



15:39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。「この方は本当に神の子であった。」

15:40 女たちも遠くから見ていたが、その中には、マグダラのマリアと、小ヤコブとヨセの母マリアと、サロメがいた。

15:41 イエスがガリラヤにおられたときに、イエスに従って仕えていた人たちであった。このほかにも、イエスと一緒にエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。

15:42 さて、すでに夕方になっていた。その日は備え日、すなわち安息日の前日であったので、

15:43 アリマタヤ出身のヨセフは、勇気を出してピラトのところに行き、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。ヨセフは有力な議員で、自らも神の国を待ち望んでいた。

15:44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いた。そして百人隊長を呼び、イエスがすでに死んだのかどうか尋ねた。

15:45 百人隊長に確認すると、ピラトはイエスの遺体をヨセフに下げ渡した。

15:46 ヨセフは亜麻布を買い、イエスを降ろして亜麻布で包み、岩を掘って造った墓に納めた。そして、墓の入り口には石を転がしておいた。

15:47 マグダラのマリアとヨセの母マリアは、イエスがどこに納められるか、よく見ていた

イエス様の十字架のそばには様々な人々がおり、女性もいました。当時女性はさげすまれていて、人数には入れられなかったのですが、神様は女性をも尊重し、男女に優劣はつけてはおられません。

ここでも多くの女性達が危険を顧みず勇気を持って、イエス様の側近くで見守っていました。それはイエス様への信仰の表れでもあります。当時の女性のように人々からは尊重されていないようでも、主から信仰が与えられたならば、強よめられてすばらしい働きをすることができます。主と主への信仰に可能性があるのです。

アリマタヤのヨセフは、サンヘドリン（イスラエルの最高決定機関であり最高裁判所）の有力な議員でしたから、イエス様が議会で死への尋問を受けておられたときも彼はそこにいたはずです。そして今十字架のイエス様を見たときに彼は、まさにこの方が神の子であることを悟りました。イエスの遺体を埋葬するなどということは、その仲間であることを表明するのですから、その身に危険が及びますし、また議員としての地位もなくすことでした。

そしてこのことがイエス様の復活を明確なかたちとしました。墓からのよみがえり、そしてローマ兵やローマ当局の対応など、墓があったからその記録が残ったのであり、復活が明確になったのです。

主イエスが神であることを知ったなら、またその思いを新たにしたら、勇気を持って主のために、自分にできることをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

